

特別の教育課程の編成方針等について

1. 特別の教育課程の概要及び編成方針

本校では中学校インターナショナルクラス、高等学校インターナショナルコースにおいて英語、数学、理科、社会、音楽、美術、情報の7教科において授業を英語で実施するイマージョン教育を行っている。本校は「国際学園」として、グローバル化された社会で生きていくために必要な経験とスキルを生徒たちに与える使命を持っており、上記のイマージョン教育をその一環として位置付けている。主要教科を英語で学ぶことは、英語力の向上はもちろんのこと、多角的な視点を持って各教科の学習に取り組むことを可能にし、よりグローバルな視点とマインドセットを涵養することも目的としている。

高校においては、2021年度よりオーストラリア、西オーストラリア州教育省と提携し、Dual Diploma Programを導入している。このプログラムでは、本校の履修科目と西オーストラリアが定める科目(English, Math Methods/Applications, Biology, Chemistry, Physics, Modern History, Psychology, Media Production and Analysis, Philosophy and Ethics)を履修することで、本校の卒業資格だけでなく、WACE(Western Australian Certificate of Education)を取得することが可能となっている。オーストラリアの教育が育むのは、Successful Learner(成功的学習者)、Confident and Creative Individual(自信ある創造的な個人)、Active and Informed Citizen(活動的で教養ある市民)であり、これらは本校の教育方針とも合致している。

本校では以下の12のコンピテンシーを在学中に生徒たちに身につけてもらい、グローバル社会で活躍する人材の育成に努めているが、上記の特別の教育課程は本校の教育において重要な役割を担っている。



2. 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成する必要性

本校は創立当初から多様性を重視し、学内のグローバル化に取り組んでいる。現在は40名の外国人教員が勤務しており、日本人教員と同様に職責を果たしている。また、帰国生や外国籍の生徒など多様なバックグラウンドを持つ生徒も多く在籍し、その異なるバックグラウンドをお互いに甘受しながら、学校生活を送っている。そのような環境の中で、上述のイマージョン教育は本校にとって極めて自然な教育の在り方であり、同時に社会の要請とも合致していると考えられる。

また、本校は進路支援においても国内の大学だけではなく、海外の大学も視野に入れた上で支援に当たっている。2025年度は約30名が高校卒業後に海外大学に進学を決めていて、この流れは今後も続いていくと考える。そのような状況下において、英語で授業を行うイマージョン教育の導入は本校にとって妥当なものであり、今後も本校の教育を形成する不可欠な部分である。